

「終末期医療に関する調査」概要

平成20年「終末期医療に関する調査」について

平成20年3月実施

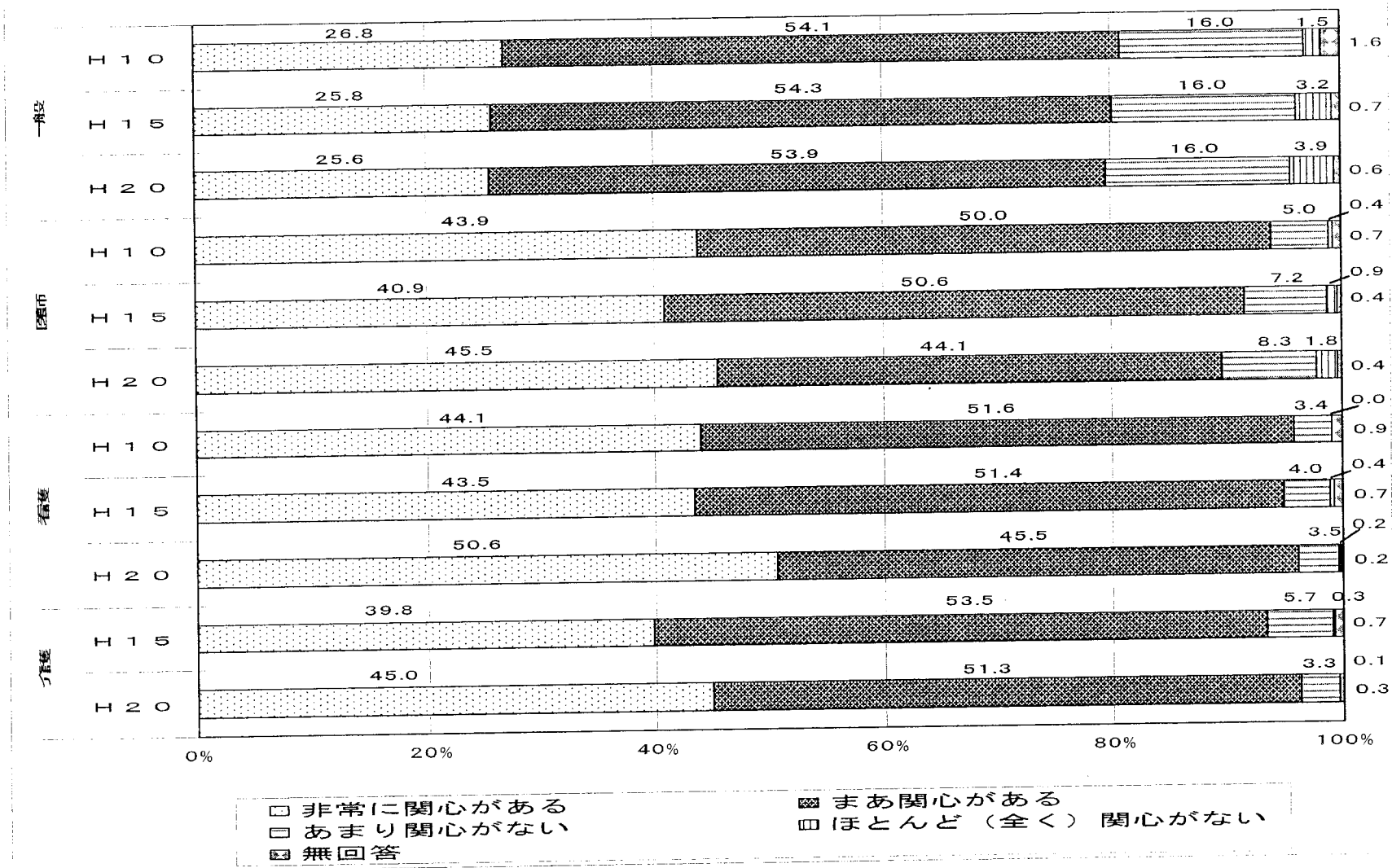
対象数と回収数:

	対象数	回収数	回収率(%)
一般国民	5,000	2,527	50.5
(うち70歳以上)	--	(457)	--
医師	3,201	1,121	35.0
看護師	4,201	1,817	43.3
介護職員	2,000	1,155	57.8
計	14,402	6,620	46.0

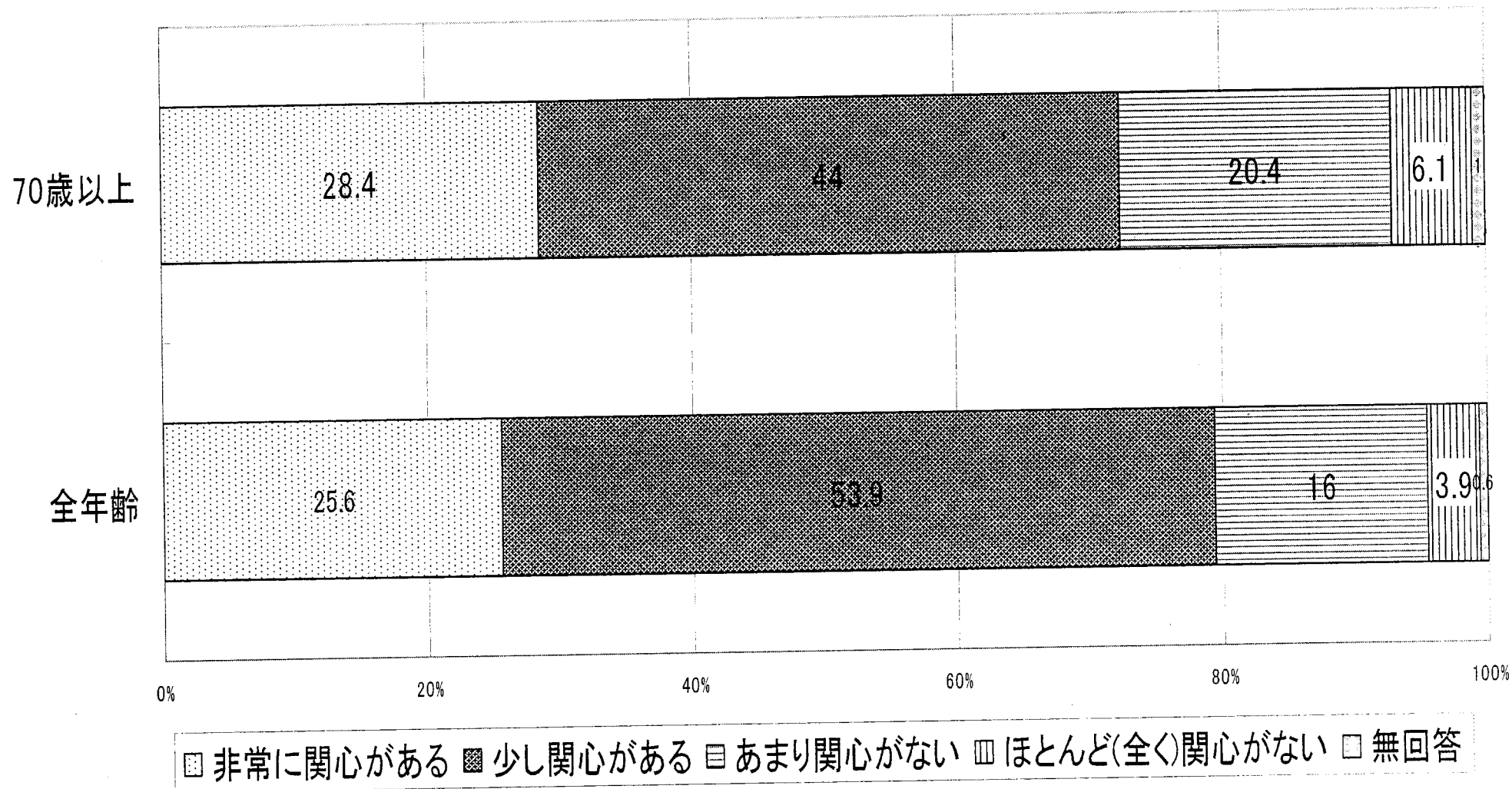
郵送調査、無作為抽出による

1 終末期医療への関心

終末期医療について、①大多数の国民が感心を持ち、②医療関係者は、一般国民に比して関心は高い。

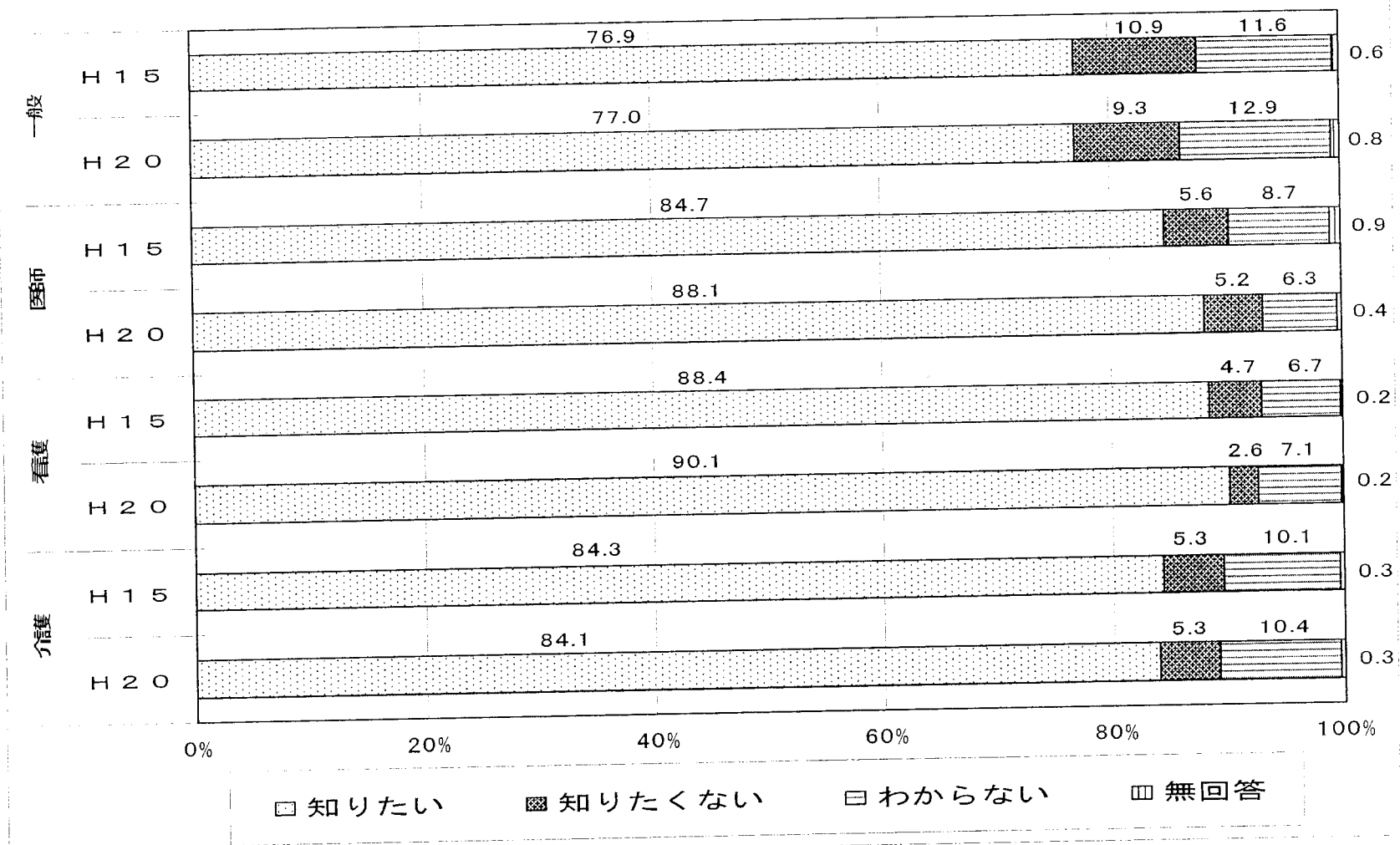


70歳以上で、終末期医療に関心を持つ者は72%である。

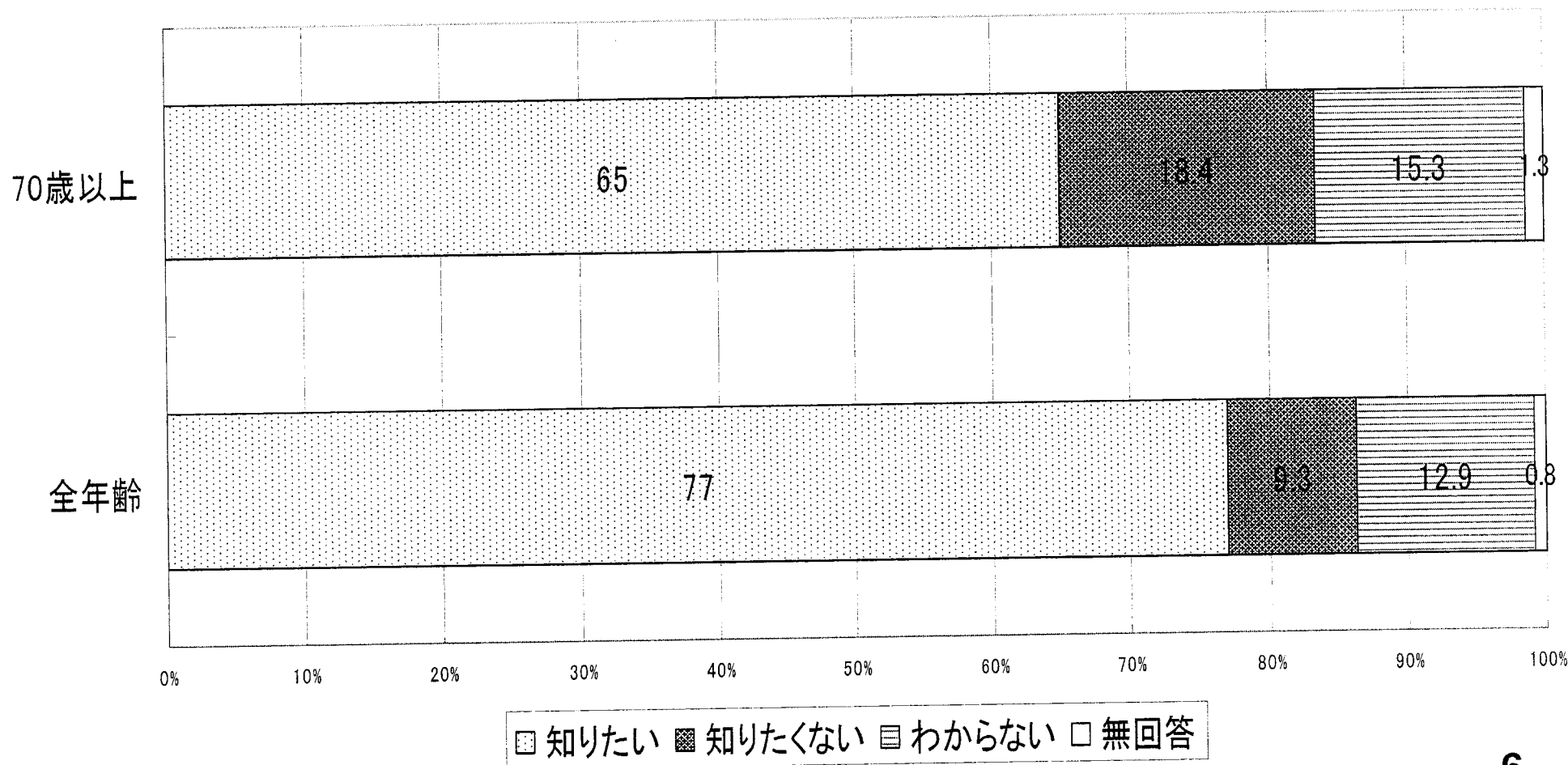


2 生命・医療・療養に関する情報提供・告知

前回(平成15年)と同様、大多数の国民が自分の病名や見通し(治療期間、余命)について知りたいと思っている。

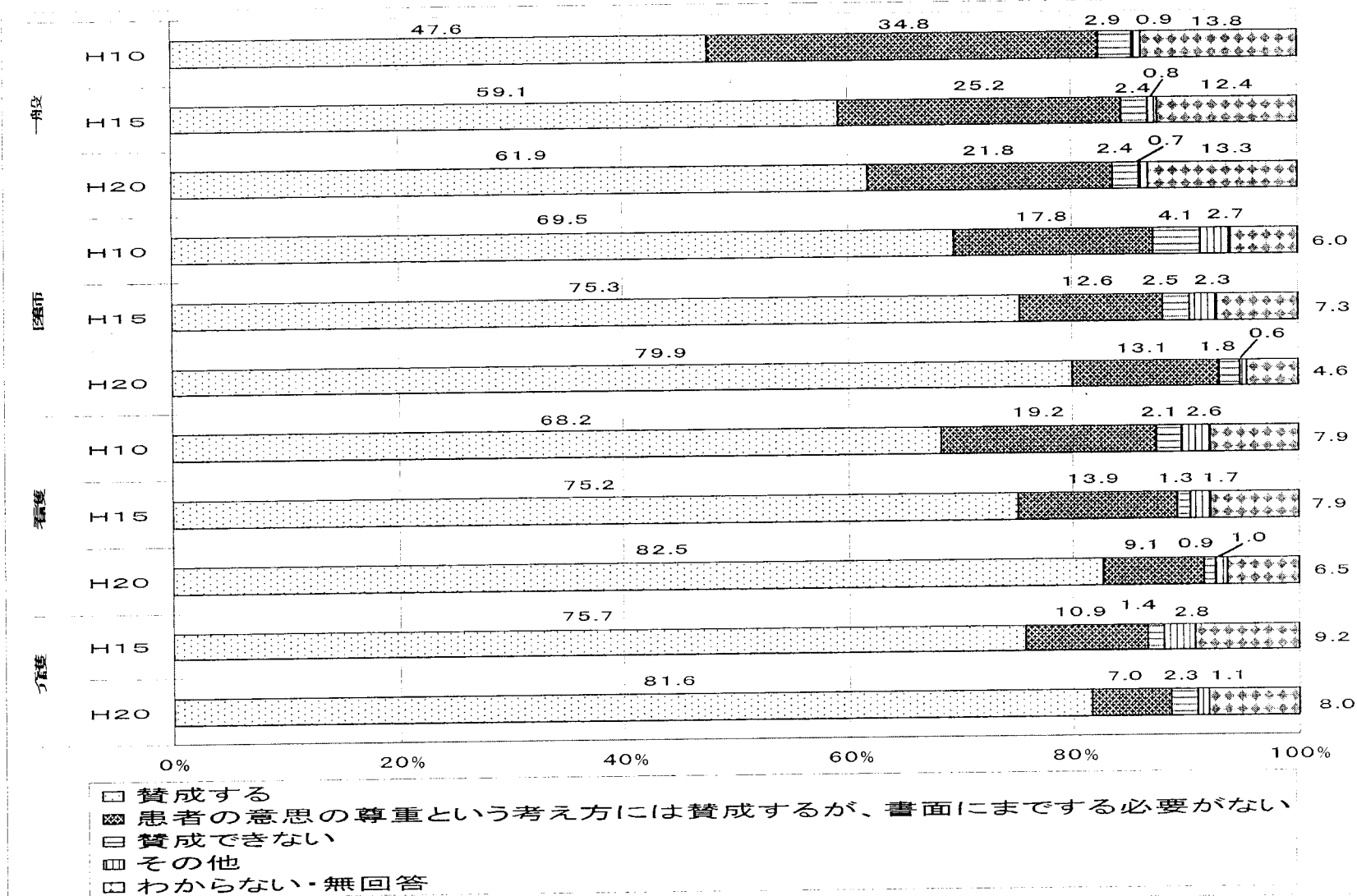


70歳以上で、自分の病名や見通し(治療期間、余命)について知りたい者は65%である。

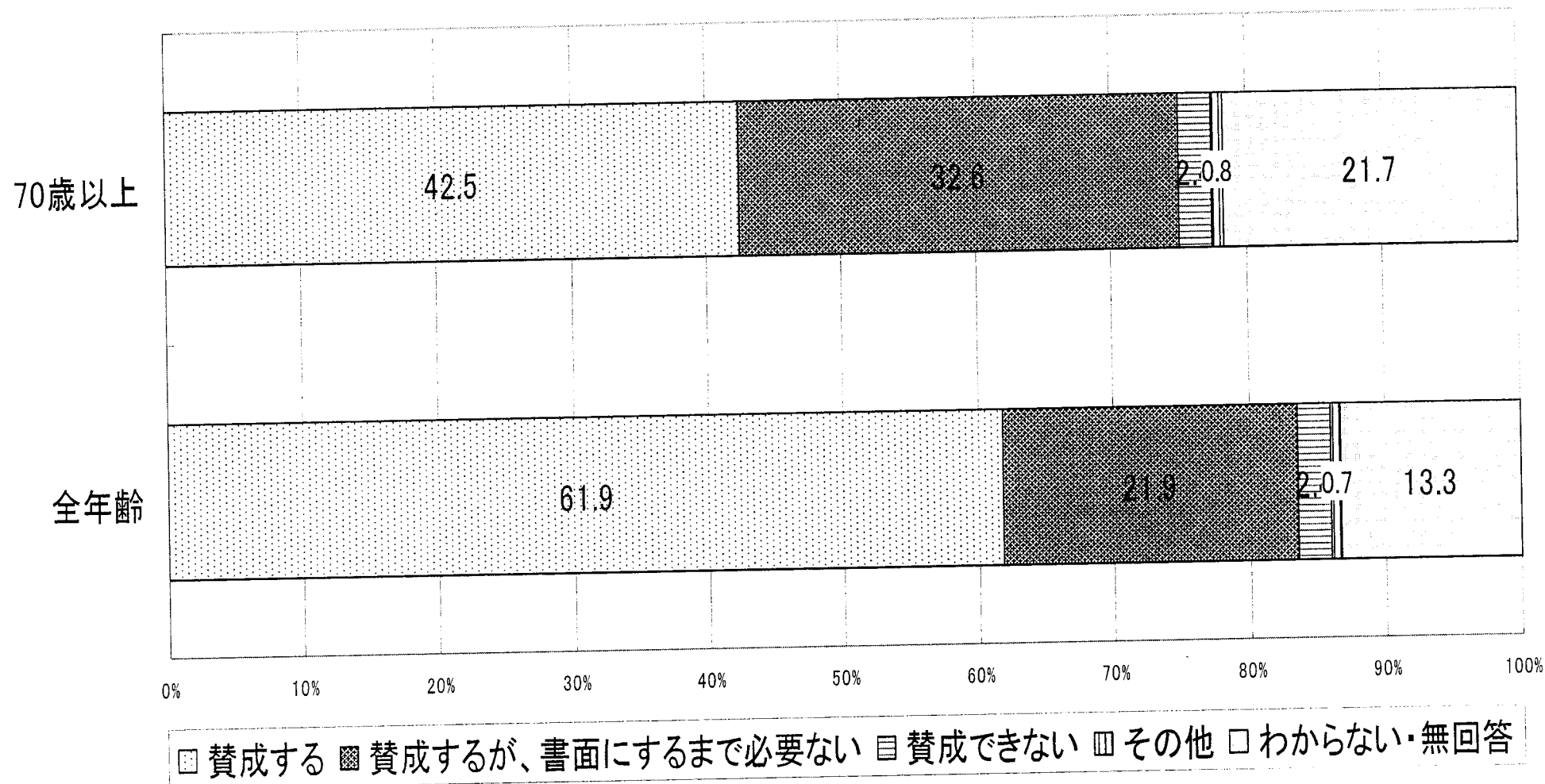


3 リビングウィル

リビングウィル(予め意思を書面にし、終末期にはそれに従って治療方針を決定)の考え方に賛成する者は多く、増加傾向にある。



70歳以上で、リビングウィル(予め意思を書面にし、終末期にはそれに従って治療方針を決定)の考え方に賛成する者は42%である。



リビングウィルに賛成する者のうち、法整備を求める者は34%（医療従事者は54%）、求めない者は62%（医療従事者は44%）と意見が分かれている。

